



発行所
 名寄市徳田204番地1
 北海道名寄高等学校同窓会
 事務局 TEL 01654-3-6842
 FAX 01654-3-6841
 発行人 会長 梅野 博
 (名高16期)
 印刷所 (株)北方印刷

名高同窓会会長に就任して

北海道名寄高等学校同窓会会長

(名高十六期) 梅野 博



昨年の同窓会の総会で山崎博信前会長の後任として名高同窓会の会長に就任いたしました。

初代の石川義雄氏から伊藤正男氏、大野猛夫氏、そして山崎博信前会長と尊敬する大先輩の方々を引き継いでこられた同窓会長を引き受けるにははなはだ力不足の感がありますが、同窓会役員又名高校長、教員の皆様のご支援をいただきながら、なんとか会長職を務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

さて、この機会にと思い、名高同窓会報について調べたく名寄高校創立八十周年記念事業の際に発刊された同窓会報の縮刷版に目を通してみましたところ、昭和三十六年十一月三日付で同窓会報創刊号が発刊されておりました。この年は丁度私が名高の一学年に在籍していた時であったことだとわかり感慨深いものがあります。この創刊号で石川義雄会長は会報第一

号の誕生を喜び次のように述べられています。「昨年の同窓会総会で同窓会事業の一端として同窓会報の発刊が取り上げられ、可及的速やかにその作業に取り掛かる事を決議したのであったが、この度担当役員諸氏のゆき届いた努力が実を結んで、ここに終戦後はじめてのいわば会報第一号が立派に誕生したのである。終戦後絶え間なく企画されてきた同窓会報が会員諸君の一人一人に読んでもらえるように、会が遂に実現したことに限りない喜びを感じると共にようやく成人になりつつある我が名高同窓会を構成する諸君の今後における一層のご活躍とご多幸を心から祈念してやまない。」と述べられています。

創刊以来五十七年の時が過ぎましたが、この間も歴代の役員の方々の並々ならぬご尽力のおかげで発刊が続けられたことに心から敬意を表したいと思います。

私も名高を卒業して五十五年が過ぎました、毎年同窓会の案内をいただき同期の方々と出席してきましたが、そのたびに名高での学生時代に戻り話が弾みます。夢と希望に満ちた青春時代でした。担任の太田正大先生、同期の何人かは鬼籍に入り時の流れを感じながら古き良き時代を思い出しております。旧名中、名高女時代からの伝統が脈々と守り継がれている道北の名

学校長より

白楊館 名高96年の歴史 山本 周男



門たる我が名高の今後に大いに期待し、同窓会も力の限り応援したいと思っております。同窓生の皆様のご指導ご支援の程よろしく申し上げます。

第二十六代北海道名寄高等学校校長として昨年一〇月に着任を致しました山本でございます。初代、佐藤徳山校長先生をはじめ九六年にわたる道北の伝統校の校長という大役を仰せつかることとなりました。見かけ通りの浅学非才ではございますが、どうぞお引き立ての程お願いを申し上げます。

同窓会 梅野会長様始め、役員の皆様、更には会員の皆様には、実りの秋を迎え、ますますご健健でお過ごしのこととお喜び申し上げます。道北をはじめ日本の各界でご活躍されておられます同窓の方々が、このように一同に介し、平成最後となりまして平成三〇年、二〇一八年の同窓会総会が開催されますことにまず持ってお祝い申し上げます。

日ごろより会員の皆様には、本校の教育活動に多大なるご支援・ご理解を賜り、紙面からではございますが、厚く御礼申し上げます。また、本日の同窓会総会にご案内を頂き、感謝に堪えません。幹事役を務められていらっしゃる三〇期・四〇期・五〇期の皆様にも、深く御礼申し上げます。

開校九六年目を迎えた平成三〇年度は、一年生一三七名(4クラス)、二年生一〇五名(3クラス)、三年生一三五名(4クラス)計三七七名の生徒と三七名の教職員の合計四一四名での船出となりました。白楊館の資料室や校長室の奥の棚にある昭和二九年度からの学校要覧から歴史をひもときますと、大正一一年に名寄中学として設置され昭和二五年に名寄女子高等学校との併合とともに普通科一学年6クラスから始まり、昭和三三年には普通科5、商業科1、定時2、その後最も大規模となった時代が昭和四一年から昭和四三年にかけて普通科5、商業科1工業科2、定時制1で全定合わせると全校で一六三三名もの生徒が西五条北五丁目の学び舎で高校生活を送っていました。昭和五〇年四月に工業科が分離独立し、校舎が西五条北五丁目から徳田に移転した時から、一学年4クラス、全日制普通科12クラス、定時制一学年1クラスになりました。平成三年までは1クラス四五人学級で全日制の全校生徒数は五四〇人でした。平成四年から1クラス四〇人となりそれ以降は募集定員一学年一六〇人、全校生徒四八〇人となりました。少子化が加速度的に進んでいる

中、平成二二年の入学生から徐々に定員を切り始めまして現在に至りますが、生徒達は入学志願倍率にかかわらず「名高」を指す高い気持ちを持って入学してきており、名高生としての姿勢は脈々として伝統の中に息づいているものと感じます。

白楊館には、「名高」の歴史と思いが詰まった素晴らしい資料室があります。同窓生の皆様におかれましては、是非一度足をお運びいただければと存じます。

後輩にあたる在校生の状況について報告させていただきますと、基本的な生活習慣が確立されている中、素直、落ち着き、品位と礼節を身に付けている生徒の集団、これが今の名高の生徒の実態かと思えます。とりわけ、各種行事における取組は目を見張るものがあり、伝統の行灯行列や展示、クラス対抗のパフォーマンスなどで学友会が中心となり先輩が後輩を指導している姿や、友人や地域の方々、先生方への優しい思いや誠実な態度は、本当に人間として素晴らしく、そんな名高生たちを誇りに思います。

また、多くの学校で「文武両道」をスローガンに掲げることが多く、ございますが、勿論、本校も様々な場面で、生徒を鼓舞する意味で使い、名高生には質の高い「バランス」と「成果」を求めています。新聞局の十七年連続全国大会出場を始め、陸上競技部の高体連名寄支部団体五連覇、サッカー部、バドミントン部、ソフトテニス部、バスケットボール部、剣道部、吹奏楽部が全道大会に進出するなど、多くの部活動がその成果を遺憾なく発揮しており、更に野

球部や陸上部、吹奏楽部、ボランテニア局、放送局の校外活動も盛んに行われていきます。とりわけ、野球部と陸上部が小学生を招いての各競技の教室を開いたり、夏休みの小学校訪問で学習支援活動を行うなど、内外から高い評価を得ることが出来ていきます。学習活動においても、地道な努力を重ね、着実な成長を続けています。進学につきましては一つの目安として国公立大学合格者数がありますが、普通科4クラスになってからの四四年間の平均が二九名のところ、ここ三年間は平均二七名と生徒数が減少する中でも維持することができ、道北の進学校としてのステータスを守りつつあるものと思っております。

ここで、さらに求められることは、変化の激しいこれからの時代において、その厳しい社会を生き抜く力強さ、たくましさ身に付ける、ということ。高校を卒業して踏み出して行く世界には競争の場面が幾度も訪れます。競争は時に、優しさや思いやりという大切なものと相対することもありますが、互いに切磋琢磨しあう中で、新たな力を生み出す原動力にもなります。その時に、持ち前の優しさや思いやりを無くさずに、より良い社会をつくるための「たくましさ」が一つのキーワードになると思います。生徒たちには、これからの自らの目標として「たくましい力」・「やりきる力」・「耐える力」を身に付けることを加えてほしいと伝え続けています。

「自ら考え 自ら学ぶ」「良識ある行動を」「健康な心身を」これは現在の本校の学校教育目標の三本の柱ではありますが、

名高の校訓「集中の行」を人生の道しるべとして、しっかりと受け継ぐ教育活動に教職員一丸となって邁進したいと存じます。

このように、質の高い教育を推進できる背景として、生徒の頑張りや勿論のこと、家庭教育の素晴らしさ、それにも増して同窓会を始めとする関係団体の強力な支援体制があればこそその結果だと思っております。

今後とも皆様には温かなご支援とご教示・叱咤激励を賜れば幸いです。

同窓会をたより

集えば笑顔あふぬ時に戻って

(名高四十七期) 廣岡 亮子

名寄高校四十七期、今回同窓会を行うにあたり、改めて知った数字でした。平成の世が始まった頃に、高校生だった私たちがバブルも終わり、経済は下降線だったのかもしれないですが、人間力は強かった時代だと思っております。学習への意欲、行事への取り組み方、どんなことにおいても人々の想いが熱く、今でも心に残る思い出がたくさんあります。今でも覚えていますが、夜遅くまで製作した行灯、のど自慢練習、演劇への情熱。しかし、そんな私たちも高校を卒業し、時は流れ、就職し、仕事、結婚、子育てとライフスタイルが変化する中で、次第と同級生同士のつながりも薄くなり、誰もやらなければ、同窓会など開催

しない現状となりました。そんな中、ある同級生に再会したときに「みんなに高校卒業してから一度も会ったことがない。」という声を聞き、何事も前向きに挑戦する私の心に火がつかしました。四十歳という節目の年、先生方もそろそろご退職、集まるなら今だ！と考え同窓会を計画しました。一年あまり計画を練り、会場の選定、名簿の作成と進めてきました。行方のわからない同級生が、次第につながり、点が線となつてつながり、たくさん同級生が集まってくれました。私たちが「まだできるんだ！」とつくづく実感しました。何よりも、恩師も参加していただけることになり、さらに気持ちは高まりました。開催場所は、札幌。やはり北海道の現状にもつながっています。札幌在住の同級生が大半を占めていました。それであれば、集まりやすい方がと場所を札幌に選定しました。

そして、いよいよ同窓会当日、平成三十年八月十一日(土)。本日に集まってくれるのかと一人心配していた私ですが、当日は、恩師の佐藤宗一先生をはじめ、五十人あまりの同級生が集まりました。何十年の時を超えて、集えばあつという間に笑顔、話しがつきませんでした。札幌だけでなく、もちろん名寄、美深、下川、風連、そして、道外からも多数の同級生が駆け付けてくれました。今の世相であるにも駆使して声をかけましたが、やはり現実の世界が一番。みんなで共に話し、笑い夜が更けるまで、三次会くらいになったでしょうか。いつまでも語り明かしました。先生にも喜んでいただき、昔話に花が咲きました。感謝

の気持ちでいっぱいでした。

今回の同窓会をいい機会に、私たち四十期もそれぞれの年齢の節目でまた集まってきたりと考えています。目指すは、六十歳を迎えるまで、折に触れて開催できたら、と考えています。誰かが始めれば、集まることができる！私たちがまだまだ熱い気持ちがあるんだ、と感じた同窓会でした。諸先輩方に続き、そして後輩達の道しるべとなるような同窓会をまた企画していきたいと思えます。今回の同窓会にあたり、たくさん同級生の協力、先生方のあたたかいお言葉、人の想いを改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございました。結びになりましたが、この会報原稿作成時に起きました北海道地震で被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日でも早い復旧を心より願います。「道産子はたくましい！」と信じております。また、次の同窓会の模様もお知らせできたら、と思えます。名寄高校卒業を誇りに思っています。また日々の生活を邁進していきたいと思えます。同期生皆様の活躍を心より願っております。また会う日まで！



名寄高校同窓会総会・懇親会の幹事を担当して

(名高五十三期) 塩田 知香

私たちは平成十三年に名寄高校を卒業し、今年で十七年が経ちました。考えてみれば、高校に在籍していた年齢分、卒業してから月日を重ねていることになり、とても驚いてしまいました。昨年の名寄高校同窓会の幹事をやらせていただくまで、このような会が開かれていたことも知らずに過ごしておりました。この会の目的は同窓生の親睦を深めることとはもとより、現役名寄高校生への支援も含まれており、このように同窓生の皆さんから支えられているのだと気が付きました。そしてそれは同窓生だけでなく、名寄市の皆さんからの温かい心遣いもあり、成り立っています。

昨年の同窓会では、卒業以来会っていなかった同級生や、先生、先輩や後輩など沢山の仲間に出会うことができました。とても懐かしく、話が尽きることはありませんでした。知らなかったという点で失礼ではありますが、こんな方も名寄高校の先輩だったのかと気が付くこともあり、とても楽しい時間だったように思います。総会のあとの親睦会では余興を担当させていただきました。名寄市の企業や個人の方々からお預かりした景品で抽選会を催しました。想像以上に豪華な景品を提供していただけており、この余興は大成功に終わることができました。あつという間に時間が過ぎ、久しぶりに会った同期のみんなと二次会へ。話題

平成29年度卒業生 進路別合格者数 (延べ数)

Table with columns for school names, gender, and counts. It lists various universities and vocational schools across different regions like Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc.

やはり高校時代の話になりました。「あの人は面白かったよね、今頃何しているだろうね」「あの時の先生はあんな感じだったよね」など、話が尽きることはなく、気が付けば日付も変わって真夜中、という感じでした。いつになっても昔を思い出して懐かしみ、楽しむことができる仲間は本当にいいものだなと感じました。

高校生の頃には三十六歳になった自分を想像もできませんでした。あの頃の自分や仲間に出会うことができた、毎日の勉強や色々な悩みも何ひとつ無駄にならないよと教えてあげたいです。私は当時、部活動で野球部のマネージャーをやらせていただきました。正直きついことばかりでしたが、そのときの顧問の先生に教わったこ

とは今でも頭に焼き付いています。一番には仲間をサポートするということの大切さです。相手のことを考えて行動することの大切さを学びました。礼儀作法などスポーツとはかけ離れているようで、一番大切なことを教えていただきました。

平成二十九年
名寄高校同窓会総会・懇親会実施される

総会・懇親会盛会に終了

平成二十九年名寄高校同窓会総会・懇親会が去る平成二十九年十月十二日(金)に例年通りグランドホテル藤花にて、約百名の参加を頂きまして、盛会のうちに終了しました。総会では山崎博信同窓会長、山本周男校長から挨拶を頂いた後、議事に移りました。二十八年度の各報告、二十九年度の計画等全ての議案が承認され、無事に総会を終えることができました。参加していただきました方々のご理解とご協力に心より感謝いたします。総会後の懇親会は、当番幹事である名高三三期、四三期、五三期の方々のご尽力で盛会に行われました。また、協賛いただきました各商社様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



平成30年度及び31年度総会日程

今年度(平成30年度)の本部総会・懇親会は、平成30年10月13日(土) 18時30分からグランドホテル藤花で開催されます。当番幹事は、名高34期、44期、54期の方々です。また、来年度(平成31年度)は名高35期、45期、55期の方々による当番幹事で、平成31年10月11日(金) 18時30分からグランドホテル藤花で開催される予定です。

夏期集中学習会

毎年、学校祭終了後の三連休を利用して、三年生が学習に集中し、進路実現に向けての大切な足がかりとしています。今年度は7月14日(土)から16日(月)の日程で、名寄市にある駅前交流プラザ「よろーな」の会議室で実施されました。落ち着いた環境の中で、勉強に集中することができました。同窓会では、この活動を後援し、会場使用料の一部を補助しています。

同窓会報第52号の原稿募集

平成31年10月発行予定の同窓会報52号の原稿と広告を募集しています。会報の掲載内容は、同窓会各員や各支部地区役員、原稿、同窓生個人の原稿、旧職員の原稿、支部日より、同期会日より、同窓生の活躍状況などがあります。寄稿先は事務局(〒096-0071 名寄市宇徳田204 名寄高校同窓会 Tel 01654-316841 名寄高校 瀧川)までご連絡ください。原稿は各自のパソコンで作られたものでも、手書きでもかまいません。写真は使用後に返却いたします。今後、同期会だよりや同窓生の活躍状況などを積極的に掲載させていただこうと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

後書

今年も同窓会報の発行にあたり、多くの方々の寄稿を賜りました。今後、若い世代の同期会開催の報告や総会・懇親会への参加を願っております。多くのご協力、本当にありがとうございました。(佐々木)

平成29年度 協賛商社一覧 敬称略順不同

青野海産物販売店	北昭産業株式会社
定木孝市朗税理士事務所	株式会社 ダスキン滝沢
株式会社 黒川商店	株式会社 グリーン薬局
東洋製麺	株式会社 緑や
北星信用金庫	かまくん本舗 えびす食品株式会社
(株)丸徳 木賀商店	有限会社ラヂエーター田中
宮崎靴スポーツ店	川瀬鍼灸整骨院
吉川印刷株式会社	有限会社 丸萬
スタジオ稲場	有限会社 クロスオート
喜信堂	株式会社 志水商店
松前陶器店	フレンドリーふたば
有限会社 喜多印刷所	オーセンティックバー ディキシー
株式会社 坂下組	株式会社 道北テント
(有)靴スポーツの すま	ゲオ名寄店ブックスレインボー
株式会社 清水金物店	名寄自動車学校
グランドホテル藤花	名士バス株式会社
柴田時計眼鏡店	株式会社北方印刷所
株式会社 名文堂	(株)振興公社 なよろ温泉サンピラー
森実商店	なよろ菓子工房ブラジル
梅野博・新事務所	